

# 第1回篠山市総合教育会議 議事録

## 1. 日 時

平成27年7月16日（木） 午後1時30分～3時00分

## 2. 場 所

市役所本庁舎4階 401・402会議室

## 3. 会議に出席した構成員

市 長 酒井 隆明

教育委員会

教 育 長 前川 修哉

教育委員 酒井 克典

教育委員 小澤 千秋

教育委員 中村 貴子

教育委員 垣内 敬造

## 4. 構成員以外の出席者

副 市 長 平野 斉

政 策 部 長 堀井 宏之

総 務 部 長 植村 富明

教 育 部 長 上田 英樹

## 5. 事務局出席者（教育委員会事務局）

次 長 細見 博文

教育総務課

課 長 小林 康弘

係 長 安井 聡博

## 6. 次第及び協議・調整事項

別紙の通り

酒井市長、前川教育 長 出席者全員	1 開会
	2 出席者紹介（自己紹介）
酒井市長 小林課長	3 総合教育会議について 「総合教育会議について」事務局説明を求める。 【資料に基づき説明】
酒井市長	4 協議・調整事項 （１）篠山市教育大綱の策定について 他市で既に策定されている大綱について、参考にお配りしたいと思う。 大綱の策定については、市長と教育委員会が協議し、市長が策定するとなっている。既に篠山市教育振興基本計画が策定されているので、全てを網羅したような大綱よりも、重点的に取り組むことについて記載出来たらい いと思う。今日は、大綱に入れる、入れないは別にして、こういった事に 力を入れたいということについて、協議いただきたいと思う。
小澤委員	保護者の立場として思う事は、保護者と学校園とのつながりが持ちにくい ということを感じている。それぞれの学校で取り組んでいることもあるが、 学校園では子どもたちをしっかりと育てているということをもっとアピール し、保護者に安心してもらえる環境作りができればと思う。また、仕事 を持っている親は、子どもが病気になった時に預けるところがないので、 小さい子どもを持つ親も安心して子育てができる環境が整備できたらと思 う。
酒井市長 小澤委員	具体的にいうとどういったものがあるのか。 保護者同士のつながりが作りにくい状況にあるのではないかとと思う。保護 者の責任でもあるとは思うが、参観日等に行った時だけでは、コミュニケ ーションがとりにくく、保護者間や学校と保護者の情報共有が十分に図り にくい状況にあるように思う。学校だよりやホームページの充実など、情 報発信に力を入れていただき、保護者が情報を得やすい環境を作ってい ただきたい。
酒井委員	これまで2つの執行機関があり、同じ方向に向いていたとは思いますが、総合 計画や市政執行方針の教育内容を読むと、市長が言う篠山の時代をつくる 為の教育振興基本計画を策定できたのか少し疑問に思う。今回、市長部局 と、教育委員会が連携を密にして、1つの方向性を向き、計画に打ち出し、 検証していき、確実に篠山の時代をつくる必要があると思う。そのポイン トは、市長が書かれている「自立した市民の育成」であり、消滅可能性都 市と言われる時代にあって、今の子どもたちが、50歳、60歳となった とき、篠山を発展させてもらわないといけない。そういう子どもをつくる 為の大綱にしたい。ピロリ菌の事や就学前の子どもたちに対する取り組み はしていただいていると思う。その一方、定住促進こそ、篠山の最重要課

<p>酒井市長 酒井委員</p>	<p>題であると書かれているが、子どもを持った方たちが住んでもらおうとしたときに、一番大事なのは、確かな学力を付けてもらえる学校である。ここで学べば安心だということが、住む街を選ぶポイントだと思う。そういう意味で、今年度の篠山の教育の中にも、学力状況調査結果を平均値以上にするということを明記している。学力の捉え方としてはさまざまあるが、良い環境の中で、良い食べ物を食べ、確かな学力を付ける篠山市になってほしい。また、その子たちが、篠山の将来を担って、篠山の時代をつくってくれる、というようになればいいなと思う。</p> <p>確かな学力とはどのようなものか。</p> <p>決して、偏差値の高い大学に行くというものではなく、文部科学省が方向性として出している「人間性も含めた力をつけるもの」だと思っている。自分で考え、自立していく力であると考え。市長も言われている、地区ごとが自立していくために、創造的な支援をするための力。当然、他者とつながる力も必要だし、自分で開発、開拓していく力、それを発信する力、政治に対しても意識できる力も必要だと思う。</p>
<p>酒井市長 酒井委員</p>	<p>そういった事を高めていくということは難しい面があると思うが。</p> <p>全ての学力が高められるわけではなく、学力の一端でよい。学力状況調査については、少なくとも、全国の平均よりもいい点でありたいと思う。</p>
<p>酒井市長</p>	<p>ペーパー試験の結果と、生きる力とは違うと考えている。大綱でこだわる必要があるのか。教師がこだわるということはいいいと思うが。保護者としては、篠山市に来れば、小学校、中学校、高等学校があり、安心して教育が受けられることは必要だと思うし、目指すべきだと思うが、学力というと、テストの点数というように見られないか。偏差値を上げる、そのための塾のやり方など、少し間違った勉強の仕方が、学校現場の中に入っはいけないと思っている。</p>
<p>酒井委員</p>	<p>そこは見解の相違で、一昔前の学力観のことをおっしゃっていると思う。当然、この会の中で、市長の思われる学力観もお話していただけるといいと思う。</p>
<p>垣内委員</p>	<p>私の思う学力は生きる力だと思う。酒井委員のおっしゃっているのは、テストの点数のみを取り上げているのではないと思う。生きる力で大切なのは、色んなものに、自分から興味を持つことだと思う。どうすれば生きていけるのかということもそうだと思うし、様々なことに疑問を持つことが大切だと思う。市長のおっしゃられるようなテストの点数というものではないと思う。私が大綱を作るに当たって思うのは、大綱なので、網羅するのは逆に分かり難くしてしまうので、例えば、教育振興基本計画の中に書いてあるように、教育全体を就学前と、義務教育と、社会教育の3つのライフステージ分けて、それぞれが、バランスよく整っている教育が必要ではないかなと思う。総合教育会議が持たれた趣旨があるが、篠山市としてはそれ以外にも全体的なことを考えていることをうたった方がいいと考える。就学前と義務教育は確かに大事な部分であるが、人間の一生で考える</p>

中村委員	<p>と、生涯教育に関わる時間も長いので、その中で子どもに対することも考えていける。そういった全体を含めて子どもを大切にしている篠山市というものを打ち出し、地元への愛情を持つ方を増やしていくということが出来ればと思う。</p> <p>私が子育てしながら願っていたのは、教育環境が整い、どの学校に行っても、読み、書き、そろばん、あのねちゃんなど、一定の成果がどの子にも表れるというのを願っている。やはり、基礎学力の定着は必要だと思う。</p> <p>2年間教育委員をして感じたことが2点ある。まずは、乳幼児からの幼児教育と、小、中、高等学校、大学との連携がもっとできればいいと思うのが1点。もう1点は、篠山を愛して、地域を誇りに思う人材を育成したいと思った時には、ふるさとの良さに触れる取組に、生徒たちが積極的に参加できる体制づくりを市として持っていけるといいと思う。</p>
前川教育長	<p>総合計画の中で、アンケートがあったと思う。教育長になった時に、篠山の良いところは何かという、自然が一番で、教育は7%だったかと思う。それを100%にしようとは思わなかった。これは、人が素直にどのように感じるかというものである。スタンダードに対して、いつの間にか子どもたちが元気に育っていたというものだと思う。もちろんアピールすることは大事だと思う。私のこだわりは、「知的自然児」である。子どもの時にこそ、目の前に動いているものに関心を持ち、そこから入っていき、社会の事や篠山にも関心を持つようになると思う。乳幼児期のことについては、保健福祉部の健康課にも密接に関わっていただいている。福祉と教育は非常に関わりが深いと思う。そういった事を「ふたばプロジェクト」として横断的に取り組んでいければと思う。語弊があるかもしれないが、学校教育は、国の中で制度が確立されている。そこへ、ふるさと教育を入れることによって、篠山らしい教育が出来ると思うし、今挑戦的にやっているところである。キーワードとしては、ふるさと教育であると思う。読み物にしても、自分が遊んだ経験から文章を読んだり、イメージする体験がないとイメージできない。また、大人が元気でないといけないと思う。少し話はそれるかもしれないが、交響ホールで民謡の公演があったが、600人集まられた。一番多かった年代は70代の方であった。今、篠山の文化、民謡の中心は70代だと思う。そういった方々が、元気になさっている。それをどう次の世代につないでいくかがポイントになると思う。また、まちづくり協議会でも様々な取り組みをされている。そういった事も社会教育と考えるなら、教育委員会だけでは完結しない。大綱の中には、まちづくりの中に人がどう動いていくかということ、社会教育の分野で盛り込んでいくことが大切だと思う。細かい学力観もあるし、制度として病児が集まる場所も必要だと思う。そういった事は、事務局でもっと考えていかなければならないと思う。もう一つ考えるべきことは、大綱の有効期間である。時代と共に変わっていければいいと思うし、時代時代でメインになるものを変えていければいい。</p>

酒井市長 安井係長	<p>他の市で特徴的なものは無い。</p> <p>1枚もので端的に表現されているものに、和光市の大綱がある。これだと、基本理念をうたい、市としての大きな基本方針を3点あげて、具体的な中身まで行かずに、目指すべき方向性を示されている。こういったものが先ほどの話の中ででたような考え方ではないかと思う。他には、丹波市では、教育振興基本計画をそのまま反映してあり、小野市は教育振興基本計画を抜粋した形になっている。</p>
酒井市長 酒井委員	<p>特徴的なものは無い。市の特徴が出たものがないと意味がないと思う。</p> <p>何を中心に大綱を作るのかという中で、私は学力を提案した。中村委員はそれを具体的に言われた。市長は篠山らしいものを作りたいということだと思う。</p>
酒井市長 酒井委員 酒井市長	<p>酒井委員の言う学力と、中村委員の言う基礎学力とは違うのか。</p> <p>同じである。</p> <p>私が常々言っているのは、ふるさとの良さを教え、ふるさとを担ってもらうということである。これまで言われていた、勉強をし、良い大学に行き、良い就職先に就き、出て行ってしまような教育はいけないと思っている。中学校3年生の弁論大会があったが、題名が「こんな田舎」であった。内容は、親はこんな田舎ではなく、勉強して都会へ行くようにというが、僕はこの篠山市が好きですというものであった。丹波篠山と言えば、山奥というイメージであったが、今は素敵な魅力ある街である。校長会で私は「ふるさとを支える教育」をして欲しいと言ったら、私たちは「世界に羽ばたく教育をしている」と言われた。世界に羽ばたくのはいいのだが。世界に羽ばたく人が篠山へ来る。世界に羽ばたくことは、篠山にすることである。それくらいの誇りを持たなければならない。かつて1,500人いた1学年の生徒が今は300人。いくら学力を付けても、みんなが出て行ってしまつては地域はもたない。まずは、篠山の子どもたちに、篠山に住み続けてもらうことであると考えている。</p>
酒井委員	<p>市長の考えは、極端に言うと、学力をつけるということは、良い大学に行く、東京に行くという考え方だと思う。それも勿論あると思うが、篠山で住んで生きていこうと思えば、仕事をしないといけないし、篠山の特色を活かして生きていかなければいけない。それができる力をつけるために、学力をつけなければいけないと思っている。</p>
酒井市長	<p>丹南中学校の校歌の中に「幸せ多きふるさとの 栄えあるあすを担い起つ」のが丹南の学び舎であるとなっている。今そういう教育を小学校や中学校ではしているのか。</p>
前川教育長	<p>日本の流れはそうであったと思う。これは、一時の工業化の流れの中でおこったものであると思う。そうでなければ今のような少子化、過疎化ということにはなっていないと思う。その流れを今変えようとしている。</p>
酒井市長	<p>小中学校の教育プログラムの中で、ふるさとの良さを教えるということとはどの程度あるのか。</p>

前川教育長	3年生から副読本等を使い地域のことを学んでいく。もう一つは週2時間の総合的な学習の時間を活用しており、学校でも力を入れているところである。そこは、大きく変わろうとしている。
酒井市長	河合雅雄先生を知っていますか、と子どもたちに聞くと、誰も知らなかった。名誉市民第1号である。先生もわかっていないのではないかなと思う。
前川教育長	「森の学校」の映画を市内全て回ったが、そこからの深まりと広がりがあった。河合雅雄さんのふるさと教育の考え方はつなげていきたいと思っている。
酒井市長	中村委員からあったように、ふるさとの良さを知るカリキュラムを組む必要がある。
酒井委員	そもそも、教育権については、一昔前は、文部科学省から流れてきたことだけをやってたのが、今は地方の時代ということで、各地方で、その流れを作ってくださいという流れに変わってきている。例えば、本市教育委員会で、篠山の教育の中に、コミュニティスクールを5年計画で全校で実施するという計画を立てている。これが一つのポイントになると思っている。地域の方と一緒にあって、地域を育てていく、地域を育んでいく子どもたちを育てていく。それを地域と一緒にあって取り組んでいく。そのために、開かれた学校ということで、どんどん学校の情報を地域の方に発信する。そして地域の声を聞いてやっていけばいいと思う。河合先生の話が出たが、それ以外にも地域にはそれぞれ独特の素晴らしい生き方をされている方がある。その方たちと一緒に学ぶことによって、地域の良さを分かってくればいいのではないかなと思う。全国的にも篠山市は先進的に取り組んでいる。国としては地域が活性化するためにもコミュニティスクールをやっていこうという流れがある。市長がおっしゃられている教育が地域とともに出来ているのではないかなと思う。
酒井市長	現在はどういう状況であるのか。
前川教育長	中学校が2校、小学校が11校である。
酒井市長	学校が非常に閉鎖的で、市長にも学校で何が行われているのか分からない。青少年問題協議会というものがあり、市長が会長であった。この中では学校の良いことしか言わないような状況であったように思う。学校の問題は先生だけが抱えるものではない。地域全体で考えるものであるということがコミュニティスクールの趣旨であると思うが、今そのようなものになっているのか。往々にして、学校評議員制度、オープンスクールなどは開かれた学校という取り組みの中でできたが、形だけになっているのではないかなと思う。
中村委員	コミュニティスクールの取り組みの中で、教室の前の花壇に地域の方が花を植えて、子どもたちとふれあうという取り組みもされている。
酒井委員	試行して、みんなで頑張っていこうという中で、やり方としては、学校の教育方針などを発信していかないといけない。ただ、一気に出来るかというとそうでない部分もある。発信出来る情報については、地域の方に理解

酒井市長 細見次長	<p>いただき一緒に考えて行こうということは確実に進んでいる。</p> <p>現場の先生の意識はどうか。</p> <p>先生の意識というよりも、篠山の子どもたちの特徴をお伝えする。全国学力状況調査では、学力のことばかりではなく、子どもたちの意識やアンケートを行っている。その中で、地域の方に関わってもらえるというような質問が顕著に全国よりも高く、小中学生も5～10ポイント高い。それはなぜかというと、小学校低学年の時から、生活科の時間などに、地域の方に作物の作り方を教えてもらったり、生き物の育て方を教えてもらったり、地域の産業である、例えばお茶について教えてもらうというような事を授業の中に取り入れている。中学校になると、内容が高度になるので、関わり方が難しくなるが、部活動に関わっていただくような取り組みもしており、そこが篠山の特長ともいえると思う。コミュニティスクールの話で言えば、個人情報ということもあり、生徒指導上の問題はいいない部分もあるが、困っている事は出す方向に変わってきていると思う。</p>
酒井市長	<p>学校の中で問題がある場合は、市長に言ってこられることもある。そういうときこそ、地域の方たちの力も借りて解決していくべきである。そういう風になっているか。</p>
細見次長	<p>問題行動が多く発生していた中学校について、今年度はほとんど発生していない。大きな要因に、何十回も行ったケース会議がある。そこには、地域の中から、課題のある子どもを知っている方を呼んだり、ケースワーカーを呼んだりというような取り組みの中で、地域の中から、「力を貸そう」という方も現れた事もある。また、教職員も、自分たちだけではない、他にも支えてくれる人がいるという安心感を持って子どもたちに向かっていく事が出来たということがある。コミュニティスクールを進めている中で、子どもたちもいい方向へ向かっている、また教職員も安心感を持てるようになっている。</p>
垣内委員	<p>大芋小学校を訪問したときに、社会科で、「地元出身の有名な人を挙げなさい」という問いに、1番には、桂文珍さん、2番目に地域の方や地域の農業委員の方の名前があがった。それは、地域の方と触れ合っているから出た名前だろうし、そういう関わり方をしているところだからだと思う。たとえ、大学等で篠山を離れてもまた帰ってきてくれる、そういう心を醸成していると思う。例えば、桂文珍さんや河合雅雄さんの名前を知っているか知らないかというよりも、地元にどういう人がいるのかということを知りたいと思う心を育ててやりたいと思うし、そういうことが定住促進につながっていくのかと思う。こういったことも篠山らしい教育に繋がっていくと思うので、大綱の中に入れていきたいと思う。</p>
中村委員	<p>私が篠山を好きになったのは、私の父親が篠山のことを好きだったからなのかと思う。市長が本当に篠山のことを愛して、発信されているので、子どもたちにも伝わっていると思うし、大人が元気に篠山を愛し続ければ、父親や母親が好きなまちを嫌いにはならないと思う。</p>

小澤委員	私もずっと篠山にいるが、大人になる過程で考えてみると、ここは田舎であるし、都会に出たいという気持ちはずっとあったように思う。ただ、大人になって、改めて、自然がいっぱいだし、住みよいところだと捉える事が出来てきた部分もある。子どもの間から、ふるさと教育として例えば、丹波焼の体験もあり、広い篠山の中で、それぞれ地域の特色もあるので、大きくはふるさと教育だが、それぞれの特色を活かしたものにできればいいと思う。
酒井市長	大きくは、学力、ふるさと教育と出ているが、学力を付けるためには、どのようにすればいいのか。
酒井委員	私は、学校だけではなく、「市民総がかり」だと思う。親が篠山が好きなら子どもも好きになる。親が本が好きなら子どもも好きになる。親や地域の方が学校教育に関心を持つ。学校だけに任せるものではないと思う。
中村委員	「読み・書き・そろばん・あのねちゃん・歯磨き」などが小さいころから習慣になればいいと思う。
垣内委員	「びっくりすること」「驚き」だと思う。驚かないとなぜかというように思わない。調べてみたい、知りたいと思わせる出来事を日常に作っていくということが学力向上につながると思う。
酒井委員	ふたばプロジェクトで、よく眠り、しっかり食べ、子どもに自尊感情を高めてやる、そしたら学ぼうという気持ちになる。その部分で大事にされていない子どもはいくら言ったところで、学ぼうという気になりにくいし、周りの大人を素晴らしいと思うようにはならない。だから、「市民総がかり」で、子どもを大事にして、自分は篠山の人達から愛されているなと感じてこそ、「不思議だな」「調べてみよう」という気持ちが出てくると思う。もちろん専門職としての学校もしっかりとやっていかなければならない。
前川教育長	学力については教育委員会として責任を持たないといけないものなので、教育振興基本計画の中でかなり謳っている。
酒井市長 酒井委員	大綱を作るときには、もう少し親しみやすく、分かり易いものは無いか。具体的な言葉はここでは難しいが、今回はっきりしたのは、地域が元気になるような学校づくりをしていこう。そのことによって、地域のつながりができて、学校が核となり、地域の発展につながるという流れの中で大綱が出来ればいいと思う。
酒井委員	例えば小学校では、丹波焼の体験をしているのか。
前川教育長	全ての子どもが行っている。
酒井委員	今の話の中で、篠山で育った子どもは、能を必ず見てほしい。色んな所に特色があるが、そういった体験をして欲しい。そのためには予算化も必要である。
中村委員 酒井市長	篠山小学校は、放課後、デカンショ踊りを保護者に教わっている。 小学校の間に、篠山の主な誇れるものを体験してほしいと思う。地元のお祭りもそうである。ふるさとの良い物を感じてもらわないといけないと思



酒井委員	う。この前学校へ行ったときに「ホタルを見ましたか」と聞くと、多紀の3校については見ていた。全の学校へ行ったわけではないし、世帯構成もあるかもしれないが、城南、岡野では少なかった。魚取りをして遊んだというような子もほとんどいないように思う。自然学校での自然体験だけでなく、篠山は自然環境が良いといいながら、身近な山や川での自然にふれあう機会が少ないので、それが出来るような環境を作っていく必要があると思う。以前、酒井達也先生がいた頃には、各学校でヒーローのような生き物があつたと思う。そう言うものも、各学校で作って欲しいと思う。そこも含めて、そう言ったことも予算化していかなければ、一人の先生に頼っていてはその人がいなければ出来なくなるという状況になる。研修センターでの人材育成も必要である。
酒井市長	お苗菊を作っているのが、城北畑、大芋、村雲だったかと思う。また、ボーイスカウト（緑の少年団活動）があるが、篠山市と丹波市がやっているが、丹波市は比較的残っているが、篠山市は少なくなっている。
酒井委員	今回市長が様々な計画をつくられたりするときに、教育委員会と連携しにくい部分があると思う。総合計画には、小学校6年生までに蛍の野外観察を経験した割合という目標を出している。ところが、学校現場に調査があつたか聞いてみるとなかった。なので、総合計画と教育振興基本計画の整合性を図り、このように市長と意見を交わしていく中で、教育委員会の中でも整理して一緒にやっていきたいと思う。もう一点、食と農のことについて、新聞に給食の残菜量調査が載っており、篠山はものすごく少なかった。理由として、小さい時から野菜作りの体験や、美味しい学校給食の提供ということが出ていたが、もっとアピールをしていく必要があると思う。教育現場から、市民が元気になるようなアピールをもっとしたいと考えている。ごみを少なくするということがあるが、例えば、給食センターから出たごみは、完全にたい肥化するなど、リサイクルし循環させるシステムをつくるというようなことが必要だと思う。こういった事を、市長部局の事業と連携して一緒に篠山の売りにすればいいと思う。その新聞記事によれば、給食ゴミが全国平均17.4キログラム、篠山市は3.89キログラム、そのうち食べ残しは、全国平均7.1キログラム、篠山市は0.9キログラムである。
酒井市長	学力、ふるさと教育、色々な体験、コミュニティスクール、安心して子育て出来る環境、保幼小中高大の連携、などが出たと思う。
酒井委員	食と農についても盛り込んでいきたい。
酒井市長	では、それぞれが、自分の思いを簡潔に書き、それを事務局がまとめるということで行きたいと思う。分かり易い短い言葉で表現できればいいと思う。

前川教育長	<p>5 その他</p> <p>(1) 第2回総合教区会議の日程について</p> <p>平成27年8月31日(月) 15:00～</p> <p>6 閉会</p> <p>次回に向けて、それぞれの思いを出していただき、また活発な議論を交わし、大綱が出来ればと思う。</p>
-------	--